

短大生と仕事・社会をつなぐ「プレゼンテーション演習」

社会人基礎力育成のためのアクティブラーニングの導入

小山 理子 (京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科)

キーワード: プレゼンテーション、社会人基礎力、短期大学



科目の概要

○科目名

プレゼンテーション演習 I
(1年・前期・必修科目・全15回 30時間)

○概要 プレゼンと企画立案を融合

プレゼンのスキル習得だけでは自分の意見を押し通すだけのそれ自体が目的化されたプレゼン力になりかねない
「**企画の実現**」という目的と融合させ、**社会人基礎力を備えたプレゼン力を育成**している

前半(1回目～6回目)…プレゼンのスキル向上に向けた**グループワーク**

↓<プレゼン力の向上>

中間ミニプレゼン大会(7回目)…全クラス合同の中間発表会

*各クラスから選出された学生が発表(3名×3クラス)
全学生による投票で優秀賞を決定

↓

後半(8回目～13回目)…企業や団体から与えられるテーマについて課題解決のための企画立案にチームで取り組む**プロジェクト型学習**

↓<企画立案能力、課題解決力の向上>

プレゼン大会(14回目)…全クラス合同の最終発表会

*各クラスから選出されたチームが発表(2チーム×3クラス)
外部審査員による審査で優秀賞を決定

↓

授業フィードバック(15回目)…これまでの学習の振り返り

実践上の工夫

(1) グループワークとリフレクションの3ステップ

① グループワーク <外化>

プレゼンスキル向上のために用意した様々なグループワーク

② リフレクション <グループで内化>

グループ内で討論する時間を設定
「うまくいった理由、うまくいかなかった理由」を議論し共有

③ リフレクション <個人で内化>

授業終了時に「振り返りシート」(B5、1枚)を記入
活動から学んだこと、今後に生かせることを考え次の行動につなげる
次の授業でフィードバックの時間も確保
*「振り返りシート」の意見は、次年度の授業内容の改善にも活用

(2) リアルなテーマ設定

「考え抜く力」を育成するためには、まず、**学生の意識変革**が必要
「問題は教科書の中にあり、答えも教科書の中にある」という意識から
「**問題は現場にあり、答えは自分たちで作り出すしかない**」という意識へ
そのために、授業での課題のテーマにリアルさを追求

★過去3年のテーマ

年度	連携先	テーマ
2017年度	京都タワー	インバウンド時代の到来を踏まえたグローバル観光拠点としての在り方
2016年度	ゲンブ株式会社	化粧品売上アップ ～女子短大生にできること～
2015年度	京都市動物園	zoo～っと好きだから... 京都市動物園集客力アップ ～女子短大生にできること～

(3) チームティーチング

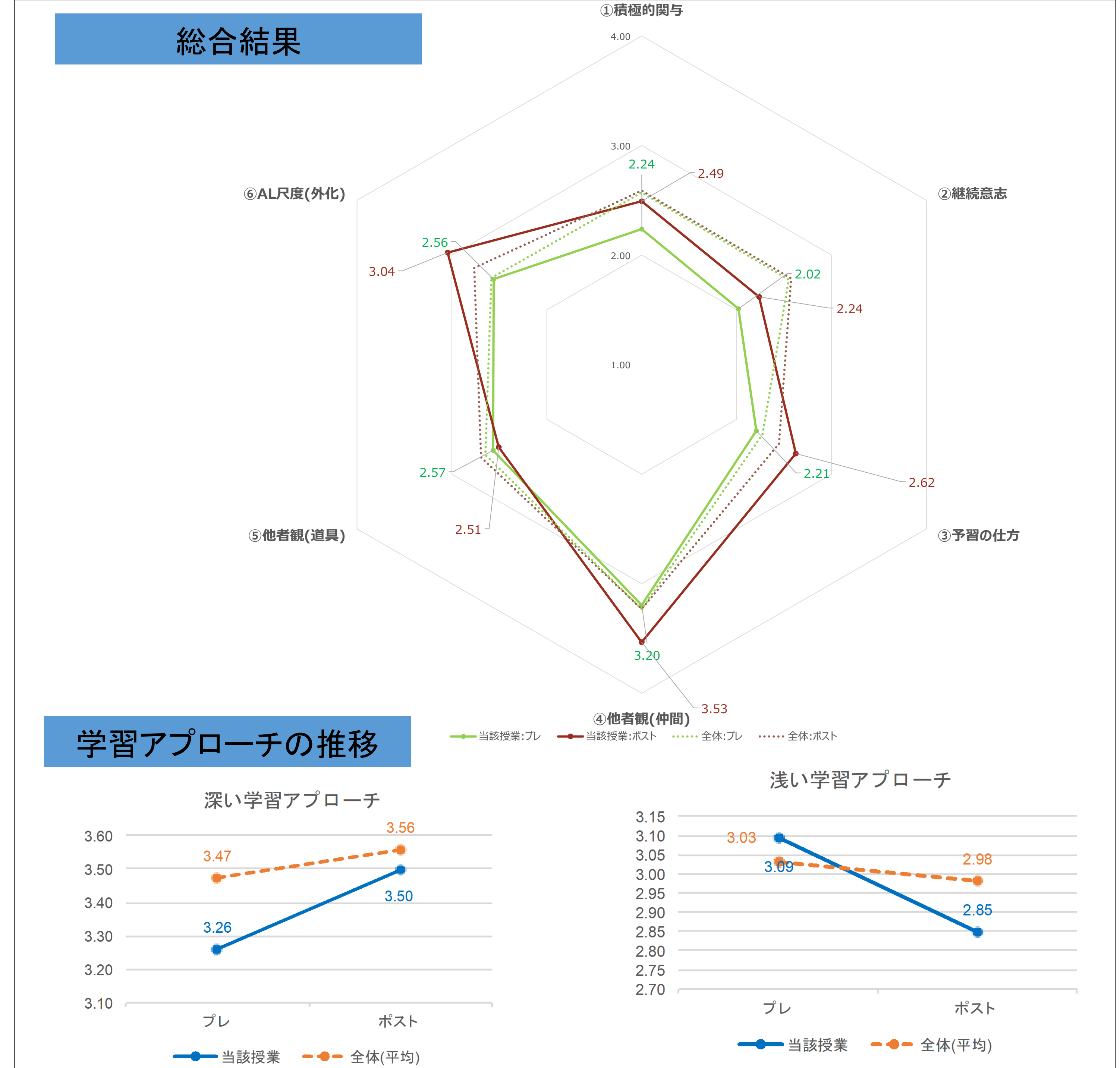
学生の潜在的な能力の差異に**重層的なサポート体制**で対応

各クラスの体制 : 教員2名 + SA2名 合計4人

教員と先輩学生がタックを組み、受講学生それぞれの弱点对応できる体制を構築

授業の効果

○AL調査の結果から見る授業の効果 (2015年度の調査結果から)



○3つの調査結果から見る授業の効果 (2016年度の調査結果から)

① 学生へのインタビュー調査

プレゼンテーション演習での学習経験が成長のきっかけになっている
学生のコメント(一部抜粋)

プレッシャーが大きく困難な課題ほどやりがいを感じ、やる気がわいてくるようになった。プレッシャーのあることは、終えたとき必ずすごい達成感があるというのを学んだ。しんどいことはしんどいほどその達成感もあるし自分の思い出にもなるし力にもなるというのが分かった。

② 卒業生へのインタビュー調査

プレゼンテーション演習が仕事をする上で役に立つ授業になっている
卒業生のコメント(一部抜粋)

プレゼンは個人的には好きだが、人前でしゃべるなど考えてもなかった。大変な授業だった。授業に行ったら、急に「1分間しゃべれ」と言われ、授業を受けている何十人の前に立たされて、「1分間、自分の好きなことをしゃべれ」とか言われるので「今日の授業は何を言われるのか」、いつもどきどきしていた。授業のおかげで会社でもプレゼンをする機会があるが、人前に出たり、目上の人としゃべるのも出来るようになった。

③ 企業へのインタビュー調査

「親和力」「協働力」「実践力」は企業が短大生に求める能力であり、これらの能力に関しては短大生に対する評価も高い

○就職率の向上

就職率実績 : 2016年 = 100%、2015年 = 99%

プレゼンテーション演習の授業がきっかけとなり、自己効力感を高め就職活動にスムーズに進むことができるようになっていることが感じられる

今後の課題

・授業外学習時間向上につながる授業改善

全般的に授業外学習時間が少ない(2016年度AL調査、グラフ参照)
授業外学習が学習成果に関連することが指摘されているため
課題の出し方などを見直し、さらに深い学習が高まる授業へと改善したい

